

COVID-19



本学の動き

行政の動き

1/28

北海道内
初の感染者発生

2/14

●北海道民初の感染者発生

2/28

●北海道 緊急事態宣言

3/19

●緊急事態宣言の解除

4/6

●遠隔準備検討プロジェクトチーム結成

学生支援センターのメンバーを中心に、各学部から1名、専門の立場として情報工学科からは2名、教務課から1名、計7名の教職員にて結成。

●遠隔授業のガイドライン作成着手

●危機管理委員会にて、
4/15からの始講を5/11へ延期することを決定

●危機管理委員会にて、
5/11～5/29までの遠隔授業実施を決定
●遠隔授業実施に関するガイドラインを教職員に配付
●各学科、各専攻、全学共通教育部は、
4/20までに「遠隔授業を実施する科目」を選定

●教員に対し、遠隔授業に関する
5講習会を動画で配信(4/15・4/16)

遠隔授業ガイドライン HUS-Moodle Microsoft Teams Zoom Google Meet

●受講に関する学生向け調査
●遠隔授業実施科目の集約(公開は5/1)
●学生の自宅通信環境への配慮として、遠隔授業受講用開放教室を準備
●教員と学生による予行演習

●始講、遠隔授業の開始

4/7

●北海道
新型コロナウイルス感染症集中対策期間

4/12

●北海道・札幌市
緊急共同宣言

4/13

4/15-16

●国 全国に緊急事態宣言
(4/16～5/6)

4/21

4/27

5/4

●国 緊急事態宣言の期間を延長
(～5/31)

5/11

5/14

●国 8都道府県を除く
39県で緊急事態宣言を解除

5/25

●国 全国で緊急事態宣言を解除
●北海道 緊急事態措置を解除

世界各地に感染が広がった新型コロナウイルス。

北海道では、1月28日に初めての感染者が報告され、全国に先がけての緊急事態宣言、その後も、北海道と札幌市による緊急共同宣言など、生活の自由を制限される日々が長期間にわたり続きました。

しかし、そのような非常時においても、大学には「教育・研究機関としての使命を果たしていく」責務があります。学生たちの学びを止めないために、学修の機会を減らさないために、教職員たちの努力と工夫、そして学生たちの大いなる頑張りで、5月11日より多くの授業を遠隔で実施しています。

本学では、2001年から「モバイルキャンパス構想」に取り組んでおり、いつでもどこでも学生と大学が双方向で情報を共有できるという、これまで築いてきた環境が、今回の遠隔授業にも活かされています。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、いままでの日常を一変させました。しかし閉塞された状況から、少しずつ新しい教育のあり方が芽生えつつあります。

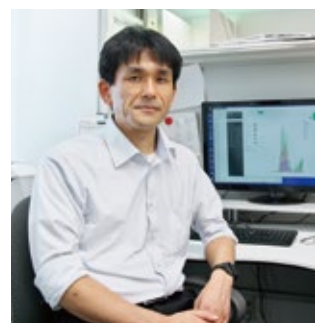
私たちは歴史が移り変わる、その真っ只中を共に生きています。今回ご紹介する本学の取り組みを通し、新たな学び方、暮らし方、考え方などを学生同士やご家族、ご友人と考えるきっかけにいただければ幸いです。



遠隔準備検討プロジェクトチーム代表 増田教授に聞く

遠隔授業ははじめの一步

「授業が始まるまでの1ヶ月間、教員たちが直面したのは『どの科目を遠隔授業にするか』という課題でした。まず、どの科目を遠隔授業にするのかの判断を1週間で行うよう依頼。次に、教員向けの準備と、学生向けの準備、またリハーサルも必要だろうとそれも始講前にお願ひしました。連休明けの5月11日が始講日でしたから、教員はもちろん、リハーサルに参加してくれた学生たちにも苦労をかけたと思いますが、実際、リハーサルを実施することでトラブルになりやすい部分が分かったり、収穫も大きかったのではないかと思います。」



遠隔準備検討プロジェクトチーム代表 増田教授

